



学 校 便 り 琢 磨

令和4年度 第4号 R4.5.2 三豊市立詫間小学校

服装のきまり等についての確認

「衣替え」の季節となりました。本校には「衣替え」というものではありませんが、この機会に服装のきまり等を確認いただけたらと思います。

- 学生服・上はり、長・半袖白ブラウス・カッター、長・半袖白ポロシャツ、紺色ベストから個人の感じ方・体調に合わせて着用する。(入学式・卒業式等、上着を統一する場合がある。)
 - ・ 白ポロシャツは、ワンポイントのないもの。
 - ・ いずれの場合も名札を付ける。
 - ・ ベストでの通学は可。セーターは、中に着用する場合のみ可。
- 登下校時には、黄帽を着用する。
- ソックスは、白、黒、紺。ハイソックスも可。ただし極端に長いもの(目安:膝を超える)、短いもの(目安:くるぶしが出る)は不可。(一部の行事でソックスの色を統一する場合がある。)
- はきものは、上靴、下靴ともに白色。上靴のラインの色は自由。靴のかかとは踏まない。
- タイツ(華美でないもの)着用時は、ソックスをタイツの上から着用しなくてもよい。
- シャツは、常時、ズボンまたはスカートの中に入れ、ボタンを上までしめる。
- インナーは、華美でないものを着用。シャツの首元からインナーが出ないようにする。
- マフラーは、危険防止のため不可。ネックウォーマーは着用可。
- 水泳学習の際のラッシュガードの着用については、保護者の判断で着用可。児童自身で着脱可能であること。黒、紺など華美でないものであること。フード付きでないこと。
- 冬場、登下校時のみ、コート、ジャンパー、長ジャージ着用可。長ジャージは、体質・体調により室内での着用も可(保護者の申出)。
- 体操服(上)の名札は、刺繍、ゼッケンの名前のみ、ゼッケンのクラス・名前のいずれも可。新たに購入する場合は、刺繍にする。(将来的に刺繍に統一する。)6年生に限り詫間中学校の体操服着用も可。

【熱中症予防のための夏場の特別措置】(開始・終了時期はその都度お知らせ)

- 体操服で登下校、体育以外の授業を受けてもよい。(登下校の帽子は通学帽)
- カッターシャツ、ポロシャツ、体操服の代わりに、白色(ワンポイント可)のTシャツを着用してもよい。いずれの場合も通学用に着用する場合は、名札は付けること。
- 本校では、上着はズボンの中に入れるように指導しているが、この時期に限っては体温の上昇を防ぐために、ズボンの外に出してもよい。

【感染症拡大防止のための冬場の特別措置】(開始・終了時期はその都度お知らせ)

- 校舎内でも上着、長ジャージ着用可。ネックウォーマー、手袋は不可。

支援員の赴任について

本日より、2名の支援員が赴任いたしました。大西 眞澄 支援員と、加藤 祐子 支援員です。

大西支援員は、週5日間の勤務で、主に藤組の支援を担当します。加藤支援員は、週2日間(月・金曜日)の勤務で、主に2年生の支援を担当します。

ミニ遠足

4月25日(月)。この日は、お弁当・おやつの日でしたので、2、3、4、6年生は、ミニ遠足に出かけました。写真は6年生の様子です。



「鍵っ子」だった私

最近、「鍵っ子」という言葉もすっかり聞かなくなりました。あまりこの言葉を聞いたことがない人のために「鍵っ子」というのは、「学校からの帰宅後、一定時間、継続的に面倒を見てくれる人がいない子ども」のことです。1960年代から都市において共働き家族が増加し、親よりも早く帰宅する子どもが家の鍵を預けられて放つとかれる状態が目立ってきたことから生まれた流行語です。

一昨年度の「独り言」に書きましたが、私の両親は、共に働いていたため、幼稚園に通うまではベビーシッター（子守りさん）に面倒を見てもらっていました。幼稚園に通い出してからは、家に帰った後は、近所で瓦屋を営んでいた祖父母の家に行くことはありましたが、一人で家にいることもありました。小学校に入学してからは、間違いなく「鍵っ子」でした。今とは違って、幼稚園児でも歩いて子どもたちだけで帰っていました。私の場合、幼稚園からの帰り道は、最後は私、一人だけになってしまいますが、近所のおじいさんやおばあさんたちが、いろいろな所で見守り、声をかけてくれたので（初めてのおつかいのように）大丈夫でした。今では、本当に、想像もできないことです。

まあ、50年も前の話ですし、田舎のことですし、私の家は、鍵など一切かけたことはありませんでしたから「鍵を持たない鍵っ子」というのが正しいのかもしれませんが・・・。

では、学校から帰って、親が帰宅するまでの間、どのように過ごしていたか？ということですが、まず、ランドセルを玄関に放り投げたら、すぐに近所の公園か広場に走って行きます。そこにいると近所の子どもたちが自然に集まってくるのです。その中でも一番年上の子が「ガキ大将」と呼ばれていました。まあ、近所の子どもたちのリーダーです。そのガキ大将の指揮の下、みんなで遊ぶのです。まるで兄弟のような、いや家族のようなものです。大きな子は小さな子の監督やお世話もします。怪我をさせないようにするのも、もし怪我をしたらおんぶして家に連れて行って家の人に謝るのもガキ大将の役目でした。まあ、親代わりみたいな存在でした。ですから、遊びの主導権はガキ大将にしかありません。今日は、木登りをすると、ガキ大将が言えば、全員が木登り、鬼ごっこをすれば鬼ごっここといった具合です。小さな子の面倒を見ろと、ガキ大将から命令されることもありますが、ぜったいに逆らうことは許されませんでした。

ガキ大将が怖くて、いやいや命令に従っていたのかと思う方も多いでしょう。しかし、案外、そうでもなかったと思います。嫌ならランドセルを放り投げて遊びになんか行きません。集まってガキ大将の指揮の下、遊ぶのが楽しくて仕方なかったように思います。遊びが終わると、ガキ大将がポケットからミカンを1つ出して、それをむいて、みんなで分けて「おいしいね！」と言いながら、一粒のミカンを食べるのも楽しかった思い出です。

都会では、鍵っ子が孤独に過ごしていたのかもしれませんが、田舎では、鍵っ子であろうがなかろうが、近所の子どもが集まって暗くなるまで遊ぶのですから関係ありません。真っ暗になって家に帰った頃には、母親が台所で夕飯の支度をしていて「また、あんた宿題もせんと遊びまわってたん。ご飯までにしなさい！」と、必ず叱られたものです。

しかし、この生活も私が小学校の高学年になった頃にはすっかり変化してきました。近所の子どもが集まって遊ぶという習慣が崩れ始めたのです。いつの間にか、学校から帰って、一人でいるという生活になっていました。でも、その時は、もう5年生か6年生でしたので、一人でいるのも悪くない感じはしていました。4歳年上の姉も、そのうち帰宅してきましたので・・・。

私の世代が、きっとガキ大将と鍵っ子の境目みたいな時代を生きたのではないかと思います。きつとこのような変化によって、私たちの世代は大人になってから「新人類（これまで常識とされてきたこととは異なった価値観や考え方、行動規範をもつ若者）」と呼ばれるようになったのではないかと思うのです。